



トマトの黄化葉巻病に注意しましょう！

茨城県病害虫防除所では、抑制トマトにおいて黄化葉巻病が平年より多く発生していることから、8月20日に病害虫速報を発表し、防除対策の徹底を呼び掛けています。[sokuhour6-8.pdf \(pref.ibaraki.jp\)](https://www.pref.ibaraki.jp/sokuhour6-8.pdf)

本病は、タバココナジラミが媒介するウイルス病で、発病してからの治療はできないため、タバココナジラミの防除を徹底してください。



写真1 頂部の萎縮症状



写真2 葉の退緑症状



写真3 タバココナジラミ類成虫

防除のポイント

- ①発病株は伝染源となるため、速やかに抜き取り、適切に処分する。また、管理作業で摘除したわき芽、葉、果実はタバココナジラミの増殖源となるため、ハウス周辺に放置しない。
- ②タバココナジラミの施設内への侵入および施設外への飛び出しを防ぐため、開口部に0.4mm目合い以下の防虫ネットを設置する。
なお、施設ビニルや防虫ネットに破損がある場合は必ず補修する。
- ③黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内や周辺部に設置し、タバココナジラミ成虫を捕殺する。
- ④タバココナジラミは多発生すると防除が困難となるため、発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ⑤薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。タバココナジラミの薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑥黄化葉巻病耐病性品種は、ウイルスに感染しても発病は抑制されるが、感染株は本病の伝染源になるため、タバココナジラミの防除は感受性品種と同様に行う。
- ⑦雑草はタバココナジラミの生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。また、野良生えトマトは伝染源となりやすいので見つけ次第処分する。

＜抑制トマト＞

- ①病原ウイルスを保毒したタバココナジラミのハウス外への飛び出しや次作への持ち越しを防止するため、栽培終了時まで防除を徹底する。栽培終了後には、株を誘引したまま根を引き抜き、2週間程度ハウスを密閉し、蒸し込みを行い、タバココナジラミを死滅させる。また、薬剤処理による古株枯死を行うことも効果的である。

＜促成トマト＞

- ①生育初期に感染すると被害が大きくなるため、育苗期から本圃初期の定期的な薬剤散布および定植時期の薬剤処理により、タバココナジラミの防除を徹底する。
- ②定植前に苗をよく観察し、新葉の退緑がみられる苗やタバココナジラミが発生している苗を本圃に持ち込まないように注意する。

表 トマトのコナジラミ類の主な防除薬剤

(令和6年8月21日現在)

薬 剤 名	希釈倍率	使用時期／ 使用回数	分類
アニキ乳剤	1,000～2,000 倍	収穫前日まで／ 3 回以内	6
グレーシア乳剤	2,000 倍	収穫前日まで／ 2 回以内	30
コルト顆粒水和剤	4,000 倍	収穫前日まで／ 3 回以内	9B
コロマイト乳剤	1,500 倍	収穫前日まで／ 2 回以内	6
ディアナ SC	2,500 倍	収穫前日まで／ 2 回以内	5
モベントフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで／ 3 回以内	23

注) マルハナパチへの影響の目安については、農業会社にご確認ください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。